



わが東中

校訓：共に羽ばたく

能代市立能代東中学校
校長室から

令和元年11月5日発行
第14号 【文責 田崎】

本校代表2名 熱弁振るう！

10月18日（金）、本校体育館で能代市少年防犯弁論大会が開かれました。本校から出場した2年生の星川大翔さんが優秀賞を、3年生の鎌田綺音さんが優良賞を受賞しました。また、優れた弁論に触れる機会をもらった聞き手側の全校生徒の皆さんの、熱心に弁士の訴えを聞いている姿勢は、とても立派でした。



地域とのつながりを大切に

星川 大翔

「誰かに話しかけられても、絶対にについて行っちゃだめだよ。」私が幼い頃からの母の口癖でした。今も外出時には私はこの言葉を思い出します。皆さんも一度は言われたことがあると思います。近年は誘拐事件など、子供を狙った犯罪がニュースでも多く取り上げられているため、私は自分の身は自分で守るためのまじないとして、この言葉を受け入れていました。他人への強い警戒心をもつことで、自分の身を守る事が出来ると考えていたのです。

「おめ、星川さんのわらしだべ。」部活動後の暗い帰り道、急に誰かに声をかけられました。声のする方向を向くと、見覚えのない女性がいました。私は急に不安になり、あまり目を合わせないまま、通り過ぎていってしまいました。知らない人だからあまり関わらない方がいいのかも…。暗くて少し心が焦っていたのかもしれません。しかし、家に帰ってこの話をすると、家族に笑われてしまいました。私が帰り道で会った女性、祖母の友人で、私も幼い頃、よくお世話になったといえます。その女性のことを知らず、他人のように振る舞ってしまったのです。申し訳ないことをしたなと思います。もし、また同じような場面に出会ったら、冷たい態度を相手にとってしまおうと思います。こんなことが続いているけば、自分のことを気に掛け、声を掛けてくれた大人は、だんだん減っていく、本当に私が事件に巻き込まれてしまった時には、誰にも気付けてもらえず…。ということになってしまいかもしれません。更に、顔を合わせても挨拶もせず、警戒心をむき出しにするという日常になってしまえば、私たちも、地域の人もいい気持ちで過ごすことは出来な

くなると思います。地域の安全は、地域住民全員のがなければ、つくり上げられないはずなのに、本末転倒です。

私はこんな状況にならないためにも、まず地域をよく知る必要があると思います。私も数年前まで近所になど全分ならず、知らない人がとても多かったのです。しかし地域の伝統行事に参加するようになって、今では近所の人ほとんどが知り合いになっています。道で出会うと挨拶を交わしたり、時には「熊出るが、いい付けていげな。」と心配までしてくれました。こうして中々で地域の安全は守られていくのではないのでしょうか。自分の身は自分で守ることも大切ですが、それには限界があります。時には、人の力を借り助けてもらうことも必要になってきます。いざという時、地域の人と助け合えるような関係をつくるためにも、相手のことを知り、互いに気に掛け合い、互いを見守り合うことが大切だと考えます。そんな環境をつくるためには、一人一人が地域の安全に関心をもち、それをつくり上げるために、地域の中でのつながりを深める必要があります。まず、その第一歩として、私たち中学生は、地域での行事、出来事に関心を向け、積極的に参加するべきだと思います。そうした活動の中で、地域を知り、地域とつながることが出来ます。その上で、地域の人の挨拶や会話が成り立ち、初めて互いを見守り合える環境が出来ると思います。地域全体がそんな強い絆で結ばれたのなら、地域内での些細なニュースや出来事を伝え合い、誘拐などの事件を防げる、犯罪に強い地域になるのではないのでしょうか。今、あなたの住んでいる地域では、ご近所どうし、笑顔で挨拶を交わすことができますか。

SNSトラブルと成長

鎌田 綺音

皆さんは、近年のインターネット(以下、ネット)について、どんな考えをもっているでしょうか。近頃ではネットの進展が目覚ましく、人とネットは切っても切れない関係にあります。もちろん、年齢や時間を問わず利用できるため、非常に便利です。多くの情報があり、今では外に一步も出ずに買い物もできます。ネットを手放せないという人も少なくないのではないかと思います。このように、現代の世の中では非常に欠かせないものになっているネットですが、その一方、様々なトラブルを引き起こしてしまう危険性がたくさんあるのです。まず、ネットの特徴の一つとして、人と人との交流です。確かに、人と人との交流範囲は広がりますが、問題も生じます。更にはネット上の仮想の世界にのめり込み過ぎてしまい、実社会での人間関係が希薄になってしまふ場合があります。もしくは、現実社会でうまく人と接する事ができない人達が一つの逃げ道としてネットを活用して他人とコミュニケーションをとっている人もいるのではないのでしょうか。

私もそのようなアプリを利用することがあります。私自身はトラブルに巻き込まれたことはないものの、そのアプリの中のある人物が日常生活での悩みや友達関係についての事を投稿していました。すると、それを見た他の人物がその人の情報を拡散して晒し者にしてしまったというのを見ることがあります。投稿した人は本気で悩みを聞いてほしくてした事でも、それを面白がる人は必ずいるのです。また、ネットは顔を直接合わせることがなくコミュニケーションをとることが可能ですので、これを悪用した「なりすまし」や詐欺、脅迫といった犯罪も起きやすくなっています。ネットは一人で瞬時に多くの情報を得られますが、何よりも相手の顔が分からないので、掲示板等、文章のみのため、誹謗中傷が激しく、顔も分からず会ったために事件に巻き込まれる可能性があります。それに、いくら情報が手に入ったからと言え、その情報が正しいかどうかは分かりません。多すぎる情報から自分に必要な情報かどうか判断しなくてはなりません。最近、千葉県を襲った大型の台風でも、停電が続く中、ネット上で間違った情報が流され、そのせいで救急車が遅れて一人の老人が亡くなってしまうという事例があったのを見たことがあります。また、この例の怖いところは誰

かが悪むだけで発信した情報を周りの人が見て、良かれと勝手に拡散している事なのです。善意でやった事でトラブルになってしまうという事は非常に怖いと思いました。そう考えると、ネット上、全ての情報が疑わしく見えてきてしまいます。ネットはとても便利な一方、その反面、多すぎる情報から正しい情報だけを選んで活用するという事は大変難しい事だと考えます。だから私は、もしそういう情報を見付けたとしても、しっかりと正しいか正しくないか判断できるようにするまでは、むやみに情報を発信しないようにすることが、今の私達にできる最大の解決策なのではないかと考えました。「みんな使っているから」

「私でも発信できるから」といって社会をまだ完全に理解していない私達が大人ぶって変に情報を活用すること自体がおかしいとは限りませんが、ネットの世界に入り過ぎないことが大切だと思えます。

更に、小学生のスマートフォン所有率で考えると、平成十四年あたりから使われ始め、次第に小学生からのネット使用率が増加傾向にあります。これは将来の事を考慮した上で非常に危険なことだと考えます。これも今までと同じで、思慮分別が足りない頃からネットを利用してしまふことで、過度な使用から携帯やネットを手放せなくなり、睡眠不足や不十分な食事で日常生活に支障をきたすようになるので、依存症になるリスクが高まってしまふからです。実際に私の周りでもネットにはまり過ぎて寝不足になってしまっている人などは多く見かけます。このような事にならないためには、どうしたらよいのでしょうか。やはり、保護者はフィルタリング制限をかけたり、ネットの恐ろしさを教えたりする事が重要だと思えます。利用者の一人一人がネットが便利である反面、危険な面を持ち合わせていることを常に念頭に置いた上で、安全に使用することが必要であると考えます。また、ネットの優れた点について私が体験した事があります。私に原因不明の腹痛が襲った時、ネットで調べてみると大体の病名が分かり、早期発見につながり助かりました。従ってネットから完全に離れることは無理でも、少しでもネットから離れる時間を設けた上で正しく活用すると、生身の人間と触れ合い、充実した時間を過ごせて、自分自身の成長にもつながるのではないのでしょうか。

